



思いやり通信

まつのみ発表会

10月30日(土)気持ちの良い秋晴れの空の下、まつのみ発表会が開催されました。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除される9月末までは、本番を迎えるのは難しいのではないかと危惧もありましたが、感染症対策への保護者の皆様のご理解や地域の皆様のご協力の下、黒松小学校では子供たちが日頃の成果を発表する機会を得ることができました。**たくさんの時間を掛けて努力してきた子供たちの発表は、とてもすてきでした。保護者の皆様に見守られながら、これまでの成果を発表できたことは、かけがえのない経験になったと思います。**



今年度、私は担任としてではなく、全体に関わる裏方の立場で発表を見ることができました。そこで改めて感じたのは、(手前味噌でこちらの紙面に書くのは大変恐縮なのですが、) 教員たちの子供たちに対する愛情や教育に対する情熱です。本番当日はどの子供たちからも緊張する表情が見られました。しかし、舞台中央に指揮者が現れると安心して「いつも通りの練習の成果を発揮するぞ。」という意志が感じられました。子供たちの視線の先で指揮をする教員の後ろ姿からは「大丈夫。君たちならきっとやれる。」という無言のメッセージや「この体験でどの子も成長してもらいたい。」という願いがひしひしと伝わってきました。教育の仕事に携わっておりますと、私たち教師は、指導の過程で使った言葉がうまく子供に伝わらなかったのではないかと不安になってしまうことがあります。成長を願って使った言葉が誤解を与えて

しまい、反省することもあります。しかし**今回の発表では、長い練習の時を経て築き上げられた教師と児童との間にある信頼関係**というか、絆のようなものを感じ、深い感銘を受けました。また、普段は音楽の指導より体育の指導を得意とする体育主任、防災主任、生徒指導主任を務める三人の姿からは、子供たちと同じくらいに努力を重ねた成果をうかがい知ることができ、感動しました。6学年の発表の際、栄光の架け橋の合唱からカイトの合奏に移るときの曲紹介のアナウンスで



「みなさんの心に、栄光の架け橋の歌に込めた思いは届いたでしょうか？ つらいことがあっても、必ず支えてくれる人がいる。そして、僕もつまずいている友を支えてあげられる人になれるよう成長していきたいと思います。」

という立派な言葉を聞くことができました。人の役に立てる存在になれるように、自分を成長させていきたいという子供たちの願いに寄り添う教育を目指して、これからもこの通信で、思いやりの気持ちの交流を発信していこうと思います。

仙台市いじめ実態調査

令和3年度「仙台市いじめ実態把握調査」に関しまして、先日2枚の調査用紙と回収用封筒を配付しました。詳しくは10月29日にお配りした保護者あて文書に記載してありますが、普段の思いやりアンケートとは違って、こちらの全仙台市小中学校で実施される調査は「児童生徒が保護者と話し合いながら回答する調査用紙をもとに、各学校がいじめの現状や児童生徒の状況を的確に把握し、いじめの予防及び早期発見、早期対応を図る」ことを目的としています。

学校の対応といたしましては、被害児童はもちろんですが、関係児童からも状況の聴き取りを複数名の教員で丁寧にさせていただきます。関係修復に必要と判断した場合には関係児童の反省を促したり、指導をしたりする場合があります。指導の内容や様子に関しましては、被害児童と関係児童の双方の保護者の皆様に連絡をさせていただきます。児童の中には「大袈裟にたくない」や「今のままの関係でいたい」という感情から「聴き取りや指導はしないでほしい」という言葉が聞かれる場合がありますが、本調査の趣旨をご理解いただき、対応にご理解ご協力を頂きたいと思っております。

